

准教授

石井 美紀代

■ 学歴

1. 2001年 大分医科大学大学院修士課程 修了

■ 学位

1. 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 地域・在宅看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 在宅ケア
2. 家族介護
- 3.

■ 研究課題

1. 在宅療養者と家族の意思決定支援における看護師の機能と役割
- 2.

■ 担当授業科目

1. 社会保障概説（看護学科1年 後期）
2. 家族看護学（看護学科2年 後期）
3. 看護研究の基礎（看護学科3年 前期）
4. 在宅看護学（看護学科3年 前期）
5. 在宅看護学演習（看護学科3年 前期）
6. 在宅看護学実習（看護学科3年後期・4年前期）
7. 看護総合演習（看護学科4年 通年）
8. 看護総合実習（看護学科4年 通年）
9. 看護学特論（看護学科4年 後期）
10. 高齢者支援学Ⅰ（保健福祉学部共通科目 2年集中）
【未開講】高齢者支援学Ⅱ（保健福祉学部合同）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|---------------|
| 1. | 授業科目名【社会保障概説】 |
|----|---------------|

	<p>本講義は、社会福祉士の外部講師を含み3人で担当しており、単位認定者として調整も行った。学生は社会保障制度について「公民」の授業で学んできているが、多くは苦手意識を持っている。学生のモチベーションをあげるため、制度や法的根拠を、患者や地域住民、家族と関連させた事例使って解説し、看護職の業務とのつながりを意識して伝えた。また、授業の最後には国家試験の過去問を解いてもらい、資格取得に必要な知識であることを学生に伝えた。さらに、授業終わりには、毎回、質問の時間を確保するとともに、出席カードに「質問・コメント」の欄を設け、学生の疑問や質問に対話する事に努めた。</p>
2.	<p>授業科目名【家族看護学】</p> <p>本講義は、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説することから、単位認定者として社会学を専門とする外部講師の調整も行った。</p> <p>学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定されることから、事前に学生支援室に協力を依頼している。事例の提示や解説する時には、自分の家族を分析させず、アニメの家族（サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん）や看護で出会う架空の事例で講義を実施した。事例分析は科目評価に使用することを説明し、基本的に授業内で、未完成の場合は自宅課題として、返却時には総評を行った。また、出席カードに「質問・コメント」の欄を設け、学生の疑問や質問に対話する事に努めた。</p>
3.	<p>授業科目名【看護研究の基礎】</p> <p>本講義は、単位認定者の溝部教授を中心に講義と演習を看護学科教員4人で担当している。15回の授業で、論文クリティーク、英語文献の要約、研究計画書の作成・量的研究と質的研究の分析体験・抄録作成と、研究の一連の流れを体験させている。</p> <p>提出物を科目評価とすることから、1つ1つの提出物に評価表を提示している。学生は自己評価を添付して提出し、返却時には、自己評価に教員評価を赤丸で示している。そのため、個人/グループの提出物は多いが、未提出の学生はほとんどいない。</p>
4.	<p>授業科目名【在宅看護学】</p> <p>本講義は、看護学の概論と方法論を合わせることから、在宅看護の理念→在宅看護の特性→対象の特性に共通する看護を、社会問題や介護問題と関連させながら解説した。在宅看護技術は家族の介護力や個別の環境に合わせて実施されるため、How to で語れない。授業内で危険予知トレーニングや事例検討によって在宅看護の視点を学び、個別の状況に対応する必要性を伝えようとしたが、個別性や不確実性が在宅看護の特性であることを十分伝えることができなかった。</p>
5.	<p>授業科目名【在宅看護学演習】</p> <p>本講義は助教・助手4人と共に担当したが、うち3人が初めて担当するため、事前の調整に時間をかけた。15回の授業を①在宅看護過程 ②訪問看護の技術提供・教育機能 ③臨床推論 の3つに大別して展開した。①在宅看護過程では、共通事例の看護過程を見本として配布・解説し、展開事例の看護過程をグループワークと個人ワークで完成させることで、個々人の知識・理解の習得を目指した。②技術提供はグループで手順書を作成し、実習室で試行して、方法と工夫点を発表し共有した。③臨床推論は、教員が発熱患者となって学生の質問に答えていき、その内容からグループで発熱の原因を突き止めることを実施した。臨床推論は事例のリアリティーを追及したため、複雑すぎて学生には理解が難しかった。</p>
6.	<p>授業科目名【在宅看護学実習】</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、医療現場ではクラスターが散発したり他の感染</p>

	<p>症の発生があり、依然として学生実習には厳しい状況である。実習施設に対し、大学の感染予防体制、学生の行動制限や健康観察、教員の指導体制、実習目標と実習項目などを事前に何度も協議し、ご理解をいただいた施設で臨地実習をさせていただいた。</p> <p>実習指導では、教員が事前に受持ち療養者の情報を取り、個々の事例と学生の到達目標を打合せしながら、助手と単位認定者の役割を分担して指導していった。</p> <p>在宅看護学・在宅看護学演習の授業評価で、学生から「わかりづらい」との厳しい指摘があったので、実習場には教科書を持参させ、在宅看護学・演習で講義したことを実習現場で解説していった。学生は「今言われたら、わかる」を連発していた。</p>
7.	<p>授業科目名【看護総合演習】</p> <p>本科目は、看護総合実習を挟んで行われる。学生には、これまでの学習や実習で興味があるテーマを選定させた。前半はそのテーマについて文献学習し、毎週ゼミでプレゼンテーションし、ゼミメンバーから意見をもらいながら実習計画を作成する。実習後は個別に指導して、その成果や疑問をまとめて論文を作成し、ゼミの論文集を作成した。当初設定していた期日を過ぎたものの、全員が論文を完成させることができた。</p>
8.	<p>授業科目名【看護総合実習】</p> <p>4年間の総まとめの実習であることから、学生が主体的に行動し学ぶ工夫と仕掛けをしていった。学生の選定したテーマの実習が可能な訪問看護ステーションを個別に選び、1名ずつ違う施設に依頼した。その後は、学生が看護総合演習で作成した各自の実習計画をもとに説明し、自ら日程交渉していった。学生は自分の実習テーマの答えが見出せるまで同行訪問を続けたため、個々で訪問日数が違ったが、納得いく実習を実施できた。</p>
9.	<p>授業科目名【看護学特論】</p> <p>本講義は看護学科教員がオムニバスで講義するもので、私は在宅看護学分野の講義を1コマ担当した。4年生後期であることから、教授するのではなく在宅医療・在宅看護の国の方針を伝え、看護の展望を思考させることを意識した。一方、学生は看護の将来展望よりも身近な国家試験の方に興味がある。そこで、在宅医療・在宅ケアのトピックスを解説したのち、自分たちで国試問題と解説をつくることをレポートさせた。国試問題を作ることで、キーワードを復習することが出来ていた。</p>
10.	<p>授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】</p> <p>本科目は総合人間科学に位置し保健福祉学部の3学科共同で行われる。福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。</p> <p>初日は3学科教員による講義、2日目は3学科の学生合同で循環器疾患をもつ在宅の高齢者家族の事例ワークを行う。グループワークでは各学科の専門性をもとに事例ワークしていくが、栄養学科＝食事・栄養、福祉学科＝社会資源、社会保障制度の活用、と専門職の明確な視点でディスカッションが進む。入院患者でなく居宅高齢者であったことから、看護学科の学生で看護職の専門性を見出せないという質問が複数あり、あらためて地域看護の大切さと教授の難しさを感じた時間であった。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997年6月～（現在に至る）	日本健康福祉政策学会	
2.	1997年10月～（現在に至る）	日本地域看護学会	
3.	1998年4月～（現在に至る）	日本看護学教育学会	

4.	1998年4月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
5.	1999年4月～現在に至る	日本老年社会科学会	
6.	1999年8月～現在に至る	日本老年看護学会	
7.	2001年11月～現在に至る	日本看護研究学会	
8.	2004年8月～現在に至る	日本在宅ケア学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	なし				
(学術論文)					
1.	なし				
(翻訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020年4月～現在に至る	戸畑区地域ケア研究会	運営委員
2.	2021年4月～現在に至る	福岡県看護協会看護研究倫理審査委員会	委員
3.	2022年11月～現在に至る	北九州市開発審査会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024年4月～2025年3月	学生委員	委員
2.	2024年4月～2025年3月	(学科) 学力向上	共用試験主担当
3.	2024年4月～2025年3月	(学科) 4年アドバイザー	アドバイザー